

検査情報月報



2012
2013
10月

横浜市衛生研究所

平成24年10月号 目次

【トピックス】

平成24年度 医動物・種類同定検査のまとめ(7~9月)	1
残留農薬検査(その2)	3
魚介類中の動物用医薬品検査結果(その1)	6
平成24年度 食品等の苦情品検査(4月~9月)	7

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査委員会報告 平成24年9月	11
------------------------------	----

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報(平成24年9月分)	16
-------------------------------	----

平成 24 年度 医動物・種類同定検査のまとめ (7~9 月)

医動物担当では、市民、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かるため、効果的な対策を立てることにつながります。平成 24 年 7 月から 9 月の種類同定検査件数は、昆虫類が 8 件(ハエ目 1 件、ハチ目 2 件、コウチュウ目 3 件、チョウ目 1 件、シロアリ目 1 件)、その他 1 件(蟻道)で合計 9 件でした。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
隣の畑から甲虫が多数発生する	 成虫、褐色、約 8mm	マルガタゴミムシ属の一種 (コウチュウ目オサムシ科)	成虫は 3 月~11 月に出現する。草地、畑地、河原などの平地に生息する。植物や小昆虫を食する。北海道、本州、四国、九州に分布する。
私道の一部からハチが飛び出す	 成虫、黒色、約 9mm	コハナバチの一種 (ハチ目コハナバチ科)	小型のハナバチで、成虫の体長は 7~10mm。体色は黒色。コガタノシロスジコハナバチ、シロスジコハナバチなどの成虫は春~秋に出現する。日当たりのよい場所の地中に営巣する。北海道、本州、四国、九州に分布する。
玄関にアリが発生	 成虫、黒褐色、約 3mm	トビイロケアリ (ハチ目ヤマアリ亜科)	巣は、土中や朽木の中に作られる。平地から山地の草地や林に広く生息する。日本全土に分布する。
シロアリが飛来する	 有翅虫、茶褐色、約 7mm	イエシロアリ (シロアリ目ミノガシラシロアリ科)	地中に営巣し、蟻道を作り建物や木材、樹木を加害する。最も被害の激しい種類。関東以西の海岸線に沿った温暖な地域に生息する。
家屋の壁に多数の虫が発生	 成虫、銅褐色、9mm	トウキョウハンミョウ (コウチュウ目ハンミョウ科)	幼虫は地表に穴を掘り、アリやクモなどの小昆虫を捕食する。成虫は 6~8 月に出現する。空き地や路上で見られる。本州、九州に分布する。
玄関横の収納庫周辺に多数の虫が発生	 成虫、銅褐色、9mm		

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
新築マンションの外通路および階段にみられる	 <p>雄成虫、灰褐色、約6mm</p>	ヒメイエバエ (ハエ目イエバエ科)	小型のハエで、早春から発生する。成虫は、屋内に侵入し、輪舞する。幼虫は動植物製の腐敗物、動物の排泄物、生ゴミなどに発生する。日本全土に分布する。
玄関の縁(木製)に幼虫が付着	 <p>幼虫、黒褐色、約6mm</p>	ヤネホソバ (チョウ目ヒトリガ科)	背面の瘤起には沢山の毒棘がある。刺されると、痛く、発疹ができる。関東地方では年3回の発生で、蛹で越冬する。幼虫は屋根瓦や板塀などに生じた苔類に発生する。本州以南に分布する。
1階天井裏に木材の破片と蟻道のような物がみられた	 <p>土の塊</p>	シロアリ類の蟻道	シロアリ類は、土、木材成分、シロアリ類の排泄物と分泌物などで蟻道を造る。木片に付着していた土の中に、シロアリ類の大腸(上顎)が数個認められた。なお、虫体は認められなかった。

【 検査研究課 医動物担当 】

残留農薬検査(その2)

当所では、横浜市内に流通する農作物等の食品に残留する農薬の検査を行っています。平成22年度より一農作物当たりの検査項目数を追加し、検査体制を一層強化しています。

今回は、平成24年6月から8月までに食品専門監視班より搬入された農作物の検査結果を報告します。

1 市内産農作物

6月に搬入されたこまつな(1検体)、なす及びびばれいしょ(各4検体)及びトマト(3検体)、8月に搬入された日本なし及びぶどう(各2検体)及びなす(8検体)の計24検体について検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。

その結果、日本なし2検体、なす4検体及びぶどう2検体から9項目の農薬が検出されました。ただし、残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。

日本なし、ぶどうからは複数の農薬が検出されましたが、いずれも残留濃度は低いものが多く、適正に使用されていると考えられました。また、クレソキシムメチル、クロルフェナピル、フェンプロパトリン及びペルメトリンについては平成21～23年度に検査を行った日本なし、ぶどうからも検出されており、よく使用されている農薬であると考えられました。(農薬の概要については下記を参考にしてください。)

検査項目及び検出限界については表2に示しました。

2 輸入農作物

7月に搬入されたアメリカンチェリー、オレンジ、キウイ及びブロッコリー(各1検体)、かぼちゃ、グレープフルーツ及びパプリカ(各2検体)の計10検体について検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。

その結果、アメリカンチェリー1検体、かぼちゃ2検体、グレープフルーツ2検体及びパプリカ2検体から11項目の農薬が検出されました。ただし、残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。

パプリカについては、農薬が検出されることが多いため、今後も調査を続けていく必要があると考えられました。

検査項目及び検出限界については表2に示しました。

【農薬解説】

クレソキシムメチル

『ストロビー』などの商品名で一般的に販売されている殺菌剤です。特にうどんこ病、黒星病、べと病などに対して効果があるとされています。

クロルフェナピル

『コテツ』などの商品名で一般的に販売されている殺虫剤です。多くの野菜に適用があり、従来の殺虫剤に耐性がある害虫に対しても効果があります。

フェンプロパトリン

『ロディー』などの商品名で一般的に販売されている殺虫剤です。広範囲の害虫(特にハダニ類)に対して有効的に作用する農薬です。

平成24年度に実施した検査では、アメリカ産のグレープフルーツから検出されました。

ペルメトリン

『アディオン』などの商品名で一般的に販売されている殺虫剤です。茶、果樹、野菜などの主要害虫の防除に使用される農薬です。

表1 残留農薬検査結果

(H24年6月～H24年8月)

農作物	産地	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
市内産農作物						
こまつな	横浜市	1	0			
トマト	横浜市	3	0			
日本なし	横浜市	2	1	{ クレソキシムメチル	0.16	5
				{ クロチアニジン	0.02	1
				{ クロルフェナピル	0.02	1
			1	{ クレソキシムメチル	0.02	5
				{ クロチアニジン	0.01	1
				{ テブコナゾール	0.23	5
				{ フェンプロパトリン	0.24	5
なす	横浜市	12	1	{ アゾキシストロビン	0.01	3
				{ クロルフェナピル	0.02	1
			1	クロルフェナピル	0.08	1
			1	クロチアニジン	0.11	1
			1	チアメトキサム	0.02	0.5
ばれいしょ	横浜市	4	0			
ぶどう	横浜市	2	1	{ アゾキシストロビン	0.04	10
				{ クロルフェナピル	0.21	5
				{ チアメトキサム	0.22	2
				{ ペルメトリン	0.39	5.0
			1	{ イミダクロプリド	0.16	3
				{ クロルフェナピル	0.39	5
				{ ペルメトリン	0.19	5.0
輸入農作物						
アメリカンチェリー	アメリカ	1	1	{ イミダクロプリド	0.03	2
				{ カルバリル	0.04	10
				{ ボスカリド	0.04	3
オレンジ	アメリカ	1	0			
かぼちゃ	メキシコ	2	1	イミダクロプリド	0.01	1
			1	{ イミダクロプリド	0.03	1
				{ エントスルファン(α、βの和)	0.007	0.5
				{ ミクロブタニル	0.01	1
キウイ	ニュージーランド	1	0			
グレープフルーツ	南アフリカ共和国	2	2	ピラクロストロビン	0.02、0.03	1
パプリカ	オランダ	1	1	メキシフェノジド	0.01	3
	韓国	1	1	{ クロルフェナピル	0.15	1
				{ ピラクロストロビン	0.02	0.5
				{ プロシミドン	0.05	5
				{ ボスカリド	0.07	10
				{ ルフェヌロン	0.04	1
ブロッコリー	アメリカ	1	0			

表2 農薬の検査項目及び検出限界(114項目)

農薬名	検出限界 (ppm)	農薬名	検出限界 (ppm)	農薬名	検出限界 (ppm)
BHC(α、β、γ及びδの和)	0.005	シハロトリン	0.01	フェニトロチオン	0.01
DDT(DDE、DDD及びDDTの和*)	0.005	シフルトリン	0.01	フェンクロルホス	0.01
EPN	0.01	シペルメトリン	0.01	フェンスルホチオン	0.01
アクリナトリン	0.01	ジメチルビンホス	0.01	フェンチオン	0.01
アセタミプリド	0.01	ジメトエート	0.01	フェントエート	0.01
アゾキシストロビン	0.01	シメトリン	0.01	フェンバレレート	0.01
アルドリリン及びディルドリン	0.005	スルプロホス	0.01	フェンピロキシメート	0.01
イソフェンホス	0.01	ダイアジノン	0.01	フェンプロパトリン	0.01
イソプロカルブ	0.01	チアクロプリド	0.01	ブタクロール	0.01
イプロベンホス	0.01	チアメキサム	0.01	ブタミホス	0.01
イミダクロプリド	0.01	チオベンカルブ	0.01	ブプロフェジン	0.01
インドキサカルブ	0.01	チフルザミド	0.01	フルジオキソニル	0.01
エスプロカルブ	0.01	テトラクロルビンホス	0.01	フルシトリネート	0.01
エチオン	0.01	テトラコナゾール	0.01	フルトラニル	0.01
エトプロホス	0.005	テトラジホン	0.01	フルバリネート	0.01
エトリムホス	0.01	テブコナゾール	0.01	フルフェノクスロン	0.01
エンドスルファン(α及びβの和)	0.005	テブフェノジド	0.01	プロシミドン	0.01
エンドリン	0.005	テブフェンピラド	0.01	プロチオホス	0.01
オキサミル	0.01	テフルトリン	0.01	プロパホス	0.01
カズサホス	0.01	テフルベンズロン	0.01	プロピザミド	0.01
カフェンストロール	0.01	デルタメトリン及びトラロメトリン	0.01	プロメカルブ	0.01
カルバリル	0.01	テルブホス	0.005	プロモプロピレート	0.01
クレソキシムメチル	0.01	トリアジメノール	0.01	ヘキサコナゾール	0.01
クロチアニジン	0.01	トリアジメホン	0.01	ヘキサフルムロン	0.01
クロマフェノジド	0.01	トルクロホスメチル	0.01	ヘプタコル(エポキシドを含む)	0.005
クロルピリホス	0.01	パラチオン	0.01	ペルメトリン	0.01
クロルピリホスメチル	0.01	パラチオンメチル	0.01	ペンコナゾール	0.01
クロルフェナピル	0.01	ハルフェンプロックス	0.01	ホサロン	0.01
クロルフェンゾン	0.01	ビフェントリン	0.01	ボスカリド	0.01
クロルフェンビンホス	0.01	ピペロホス	0.01	マラチオン	0.01
クロルプロファム	0.01	ピラクロストロビン	0.01	ミクロブタニル	0.01
クロロクスロン	0.01	ピリダフェンチオン	0.01	メチダチオン	0.01
シアノフェンホス	0.01	ピリブチカルブ	0.01	メキシフェノジド	0.01
シアノホス	0.01	ピリプロキシフェン	0.01	メトラクロール	0.01
ジオキサベンゾホス	0.01	ピリミノバックメチル	0.01	メビンホス	0.01
ジクロフェンチオン	0.01	ピリミホスメチル	0.01	リニューロン	0.01
ジクロラン	0.01	ピリメタニル	0.01	リンデン(γ-BHC)	0.002
ジコホール	0.01	フェナリモル	0.01	ルフェヌロン	0.01

※ DDTはp,p'-DDE、p,p'-DDD、o,p'-DDT及びp,p'-DDTの和

※参考文献

- ・社団法人日本植物防疫協会，農薬ハンドブック2011年版
- ・農薬残留分析法研究班，最新農薬の残留分析法(改訂版)
- ・農林水産消費安全技術センター及び各農薬製造会社H.P.

【 検査研究課 微量汚染物担当 】



魚介類中の動物用医薬品検査結果(その1)



平成24年7月に食品専門監視班が収去した、市内に流通するうなぎ5件、うなぎ蒲焼4件およびうなぎ白焼1件について、抗生物質のテトラサイクリン系(3項目)及びクロラムフェニコール、並びに合成抗菌剤のマラカイトグリーン類(2項目)、ニトロフラン類(3項目)及びエンロフロキサシン等(28項目)について計37項目の検査を行いました。その結果、表に示すとおり、すべて不検出でした。

表 抗生物質、合成抗菌剤の検査結果

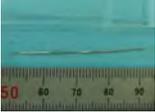
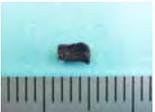
項目名	検査結果 (カッコ内は基準値)		検出限界
	うなぎ<5件>	うなぎ蒲焼・白焼<5件>	
【抗生物質】			
オキシテトラサイクリン	N.D. (0.2)	N.D. (*)	0.02
クロルテトラサイクリン	N.D. (*)	N.D. (*)	0.03
テトラサイクリン	N.D. (*)	N.D. (*)	0.02
クロラムフェニコール	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)	0.0005
【合成抗菌剤】			
マラカイトグリーン	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)	0.002
ロイコマラカイトグリーン	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)	0.002
ニトロフラントイン	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)	0.001
フラゾリドン	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)	0.001
フラルタドン	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)	0.001
エンロフロキサシン (シプロフロキサシンを含む)	N.D. (*)	N.D. (*)	0.005
オキシゾニック酸	N.D. (0.1)	N.D. (*)	0.01
オフロキサシン	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
オルビフロキサシン	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
オルメトプリム	N.D. (0.1)	N.D. (*)	0.02
クロピドール	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
サラフロキサシン	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
ジフロキサシン	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
スルファキノキサリン	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
スルファジアジン	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
スルファジミジン	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
スルファジメトキシシ	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
スルファドキシシ	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
スルファピリジン	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
スルファメトキサゾール	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
スルファメキシピリダジン	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
スルファメラジン	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
スルファモノメトキシシ	N.D. (0.1)	N.D. (*)	0.01
ダノフロキサシン	N.D. (0.1)	N.D. (*)	0.01
チアンフェニコール	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
トリメプリム	N.D. (0.05)	N.D. (*)	0.02
ナリジクス酸	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
ノルフロキサシン	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
ピリメタミン	N.D. (*)	N.D. (*)	0.02
ピロミド酸	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01
フルメキン	N.D. (0.6)	N.D. (*)	0.01
フロルフェニコール	N.D. (0.2)	N.D. (*)	0.01
マルボフロキサシン	N.D. (*)	N.D. (*)	0.01

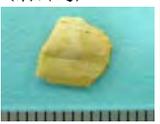
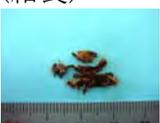
単位:ppm N.D.:不検出 *:「含有しない」

【 検査研究課 微量汚染物担当 】

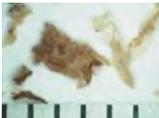
平成24年度 食品等の苦情品検査(4月～9月)

平成24年度上半期に、区福祉保健センターに届けられた食品等に関する苦情品の中で、原因究明のために食品添加物室で実施した理化学検査は、17件35検体(残留農薬関連を除く)でした。そのうち、主な検体の検査結果は次のとおりです。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
野菜スープ 煮中の異物 (給食) 	給食の野菜スープ 煮からプラスチック 片が出てきた。	外観 赤外分光分析 結果	大きさ5.8mm×5.5mm、厚さ1.7mm、重さ43mg。灰 白色で四角形のプラスチック片。 AS樹脂(アクリロニトリルとスチレンの共重合した樹 脂)に類似した赤外吸収スペクトルを認めた。 異物の材質は、AS樹脂と推定された。
チリコンカー ン中の異物 (給食) 	給食のチリコンカー ンから金属様の異 物が出てきた。	外観 鏡検 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 結果	長さ42mm、太さ0.4mm、重さ10mgの細長いテープ 状の金属片。 表面に細かい筋を多数認めた。 片面は滑らかだが、反対面は細かい凹凸を認め た。 鉄、クロム、ニッケルを認めた。 ステンレス製の金属片と推定された。
チョコレート 菓子中の異 物 	チョコレート菓子を 喫食したところ、中 から木屑のような異 物が出てきた。	外観 鏡検 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 赤外分光分析 リグニン反応 結果	大きさ10mm×6mm、重さ17mg。淡黄色の薄片十数 個が粘着物にくっついて固まった状態。 個々の薄片は長さ5～10mm程度で、端がささくれ立 っているものもあった。表面には、縦にスジ状の繊 維が走っていた。 異物断面を拡大したところ、植物特有のハチの巣 状の構造を認めた。 炭素と酸素の元素を認めた。 セルロースと類似した吸収スペクトルを認めた。 陽性 植物片と推定された。
黒色異物 (給食) 	給食中、ごはん に肉そぼろをかけて 食べたところ、黒色 異物を発見した。	外観 鏡検 溶解性 燃焼性 磁性 赤外分光分析 マイクロアナライザー 結果	大きさ2.5mm×3.7mm、重さ4mgの黒色異物。異物 は力を加えともろく崩れた。 表面は凹凸のある不定形で多孔質の固まりであっ た。一部に褐色部分を認めた。 水、濃塩酸、エタノール、アセトンおよびジエチルエ ーテルに不溶であった。 加熱したところ、炭水化物を燃やしたような臭いを 発した。 磁性を認めなかった。 植物性油脂に類似した赤外吸収スペクトルを認め た。 主に炭素および酸素の元素を認めた。 油脂を含む有機物の固まり(こげ)と推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
やきそば中の異物 (給食) 	給食の焼きそばの中に針金様金属片が入っていた。	外観 鏡検 マイクロアナライザー 磁性 結果	長さ13mm、太さ0.7mm、重さ43mgの半円状に曲がった針金状の銀色の金属片。 片方の端の方は平らにつぶれた状態で切断され、反対側の先端は鋭角に切断されていた。 鉄、クロム、ニッケルの元素を認めた。 両端の切断部分に磁性を認めた。 ステンレス製の金属片と推定された。
コロッケ中の異物 	コロッケの衣の表面に繊維状の異物が付いていた。毛髪かどうか調べてほしい。	外観 鏡検 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 赤外分光分析 燃焼性 結果	長さ約10mm～15mmの淡黄色で繊維状の異物が3本あり、そのうち1本は揚げ物の衣に付着した状態で搬入された。 太さは約0.1mmで、表面は比較的滑らかであった。また、水に浸すと柔らかくなった。 異物の断面および表面に、微細な凹凸を認めた。なお、毛に特有な横行波状の小皮紋理(キューティクル)を認めなかった。 炭素、酸素、窒素の元素を認めた。 タンパク質と同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 加熱したところ、タンパク質を燃やしたような臭いを発し、炭化した。 異物は毛髪ではない、タンパク質と推定された。
チキンカレー中の異物 (給食) 	給食のチキンカレーを食べていたところ、異物が出てきた。	外観 鏡検 マイクロアナライザー 赤外分光分析 燃焼性 結果	大きさ8mm×8mm、重さ55mg、淡黄色の堅く平らな物質。片面は滑らかで、反対面は凹凸があり一部淡褐色。 滑らかな面は表面に多数の細かい筋があり、反対面は多数の穴状の凹凸を認めた。 リン、カルシウムを認めた。 鶏の骨と同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 検体の一部を熱すると、タンパク質を焼いた時と同様の臭いを発しながら燃え、白い灰となった。 骨の欠片と推定された。
肉じゃが中の異物 (給食) 	給食の肉じゃがを食べていたところ、口の中に噛み切れないものがあった。	外観 鏡検 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 赤外分光分析 燃焼性 ニンヒドリン反応 結果	大きさ約15mm×10mm、重さ68mg。茶褐色を帯びた硬い繊維状の集まり。 茶褐色の繊維の中に白色の細かい繊維が混在していた。 太い繊維の束に細い繊維がからみついていた。 炭素、酸素、窒素、イオウ等の元素を認めた。 タンパク質と同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 燃焼させると、タンパク質の焦げたような臭いを認めた。 陽性 タンパク質が硬化したものと推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
鶏肉料理中の異物 	老人ホームで提供された鶏肉料理を食べたところ、噛み切れない小さな固形物があった。営業者はみつ豆の豆ではないかと言っているが調べてほしい。	外観 鏡検 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 赤外分光分析 燃焼性 ヨウ素デンプン反応 カルシウム定性反応 結果	大きさ7.4mm×6.6mm、6.9mm×6.7mm、6.7mm×6.0mm、5.7mm×4.4mm、3.3mm×2.0mm、重さ合計166mg。大小5個の不定形の茶色異物。 水洗いした異物の断面には、全体的に多くの空洞を認めた。当所で用意した鶏の骨の断面(骨髄部分)と形態的に類似していた。 異物の断面には、全体的に0.1mm程度の空洞が多く見られ、さらにその周りには微細な穴を多数認めた。鶏の骨の断面(骨髄部分)と形態的に類似していた。 炭素、酸素、窒素、カルシウムおよびリン等の元素を認めた。鶏の骨も同様の元素を認めた。 鶏の骨と同様な赤外吸収スペクトルを認めた。また、灰化後のものは鶏の骨を灰化したものと同様な赤外吸収スペクトルを認めた。 加熱するとタンパク質を焦がしたような臭いを発し、炭化した。 陰性 塩酸を加えると発泡した。 骨の一部と推定された。なお、参考品のみつ豆の豆とは、形態や組成等が異なっていた。
イオン水中の異物 	スーパーで無料提供されたイオン水を自宅で飲もうとしたところ、異物を発見した。	外観 鏡検 光学顕微鏡 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 赤外分光分析 真菌検査 結果	大きさ3mm×4mm、重さ4mg。黒色不定形で弾力のある柔らかい固まり。 異物を乾燥すると、表面に白い繊維状の付着物を認めた。黒色部分についてカッターで切開したところ、薄い膜状に広がり、その一部を洗浄後に観察すると、透明な繊維および白色と褐色の斑な不定形部分を認めた。 メチレンブルー染色した後に観察したところ、繊維と微生物を多数認めた。 異物を電子顕微鏡により観察したところ、微細な粒子が集合した部分を認めた。 繊維部分は、炭素と酸素等の元素を認めた。粒子部分は、炭素、酸素、塩素、ナトリウム、窒素、リン等の元素を認めた。 セルロースに類似した赤外吸収スペクトルを認めた。 培養の結果、真菌の菌糸を認めた。 セルロース繊維と真菌の固まりと推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
チーズ中の異物 	プロセスチーズを食べていたところ、異物を口の中で噛み砕き、発見した。	外観 鏡検 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 赤外分光分析 GC/MS分析 燃焼性 ニンヒドリン反応 溶解性 結果	大きさ2.9mm×2.8mm、重さ6mg。白色～淡黄色の半透明で硬く不定形な粒状の固まり。 片面は滑らかでやや盛り上がりしており、反対面は平らで細かい凹凸がみられた。また、表面には結晶のような白色のヒビ状のものを多数認めた。 細かい鉱物のようなものが集まっている部分と、形状が異なる平滑な部分が混在していた。 炭素、酸素、ケイ素、窒素、アルミニウム、カリウム等の元素を認めた。 メタクリル樹脂とシリカを合成した赤外吸収スペクトルと類似していた。また、炭化後のものはシリカの赤外吸収スペクトルと類似していた。 熱分解を行ったところ、マスライブラリ検索により、メタクリル酸-2-ヒドロキシエステル、メタクリル酸イソブチルエステル、メタクリル酸エチレンエステルと推定されるピークを認めた。 加熱したところ、有機溶剤様の臭い(エステル臭)を発生し、黒く灰化した。 陰性 水に不溶で、水中に沈んだ。 メタクリル樹脂と微粒子シリカとの混合物と推定された。
食用油中の異物 	油中に微小な異物が浮遊していた。	外観 鏡検 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 赤外分光分析 ヨウ素デンプン反応 結果	2cm程油が入った容器の底に、淡黄色～茶褐色の細かい異物が多数沈んでいた。 多数の小さな異物(不定形で大きさ数mm以下)を確認した。当所で用意した揚げ物の衣と形状は類似していた。 薄い膜状のものを固めたような形状で、表面に小さな穴が多数開いていた。 炭素、酸素、窒素を認めた。 エタノール、アセトンで洗浄後の異物は、デンプンと類似した赤外吸収スペクトルを認めた。 陽性 炭水化物を主成分とする有機物と推定された。当所で用意した揚げ物の衣と形状は類似していた。

【 検査研究課 食品添加物担当 】

感染症発生動向調査委員会報告 9月

《今月のトピックス》

- RS ウイルス感染症の報告が増加しています。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が増加しています。
- 成人男性を中心に風しんが流行しています。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が多い状況が続いています。

全数把握疾患

<腸管出血性大腸菌感染症>

14件(O157 VT1VT2 4件、O157 H7VT1VT2 1件、O157 VT2 4件、O157 H7 VT2 2件、O145 VT2 1件、O26 VT1 1件、O26 VT2 1件)の報告がありました。この中には4つの家族での家族内発症がありましたが、感染原因はいずれも調査中です。腸管出血性大腸菌感染症の家庭内での感染予防法は手洗いが重要です。さらに、下痢症状がある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。

◆啓発用チラシ「O157に注意しましょう」

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>

<腸チフス>

1件の報告がありました。渡航先(インドネシア)での感染が推定されています。

<デング熱>

1件の報告がありました。渡航先(ラオス、タイ、インドネシア)での感染が推定されています。

<レジオネラ症>

肺炎型1件の報告がありました。感染の原因は現在調査中です。

<アメーバ赤痢>

腸管アメーバ症1件の報告がありました。国内での感染が推定されていますが感染経路は不明です。

<後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)>

2件の報告がありました。1件は無症状病原体保有者で、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。もう1件はAIDS 症例(クリプトコッカス症(髄膜炎))で、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。

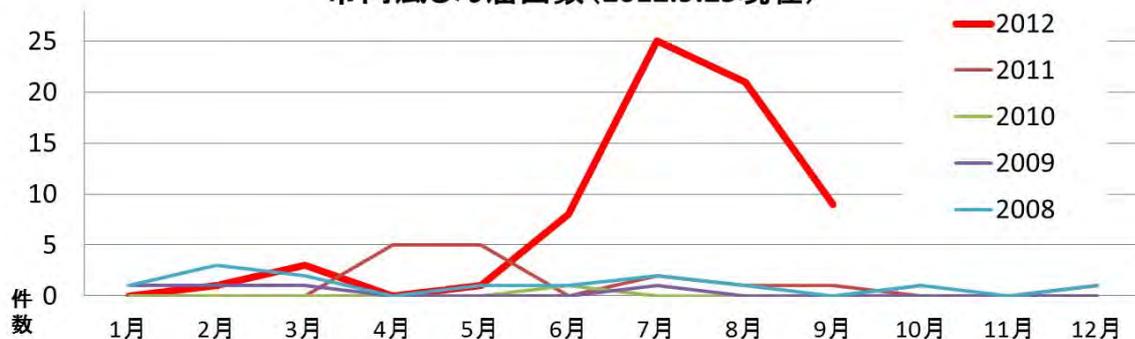
<梅毒>

2件の報告がありました。1件は無症状病原体保有者で、国内での異性間性的接触による感染が推定されています。もう1件は早期顕性梅毒(Ⅱ期)で、国内での異性間性的接触による感染が推定されています。

<風しん>

19件の報告がありました。全国的な流行は第30週をピークに減少傾向となりましたが、東京都や神奈川県を中心とした関東地方や、兵庫県、大阪府などの関西地方などでは現在も流行が継続しています。横浜市でも9月に入っても依然報告が続いており、引き続き注意が必要です。流行の中心は予防接種歴が無い、あるいは不明の20～40歳代の男性ですが、10歳代以下でも報告されています。風しんの免疫を持たない女性が妊娠中(特に妊娠初期)に感染すると、白内障、先天性心疾患、難聴を主な症状とする先天性風しん症候群の児が生まれる可能性があります。流行を抑えるためには女性だけでなく、男性の予防接種も重要です。

市内風しん届出数(2012.9.25現在)



◆横浜市感染症臨時情報: <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/>

定点把握疾患

平成24年8月27日から平成24年9月23日まで(平成24年第35週から平成24年第38週まで。ただし、性感染症については平成24年8月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

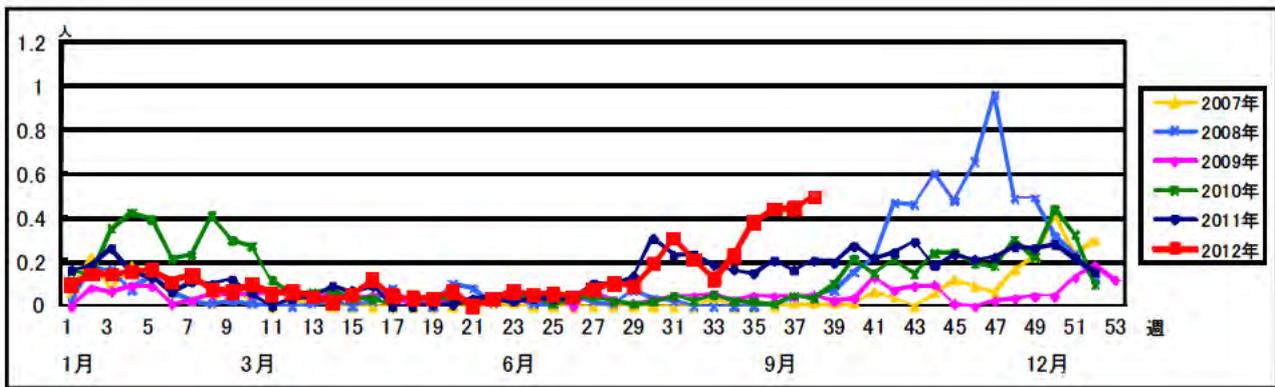
平成24年 週一月日対照表	
第35週	8月27日～ 9月 2日
第36週	9月 3日～ 9日
第37週	9月10日～16日
第38週	9月17日～23日

1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:3か所の計201か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

<RSウイルス感染症>

第33週は定点あたり0.13でしたが、その後増加し続け、38週は定点あたり0.50と、例年を大きく上回っています。RSウイルス感染症は、乳幼児の肺炎の原因の約50%、細気管支炎の50～90%を占めるとの報告もあり、また、低出生体重児や、心肺系に基礎疾患があったり、免疫不全が存在する場合には重症化のリスクは高く、臨床上、公衆衛生上重要な疾患です。RSウイルス感染症は例年冬期にピークがみられ、夏期には報告数が少なかった疾患ですが、全国的には2011年、2012年と2年連続して7月頃から増加傾向がみられています。2012年の報告数は第28週以降増加し、34週0.37、35週0.64、36週0.89、37週1.21、38週1.14と急激な増加がみられています。都道府県別の報告をみると、第38週では、宮崎県5.83、福岡県4.67、佐賀県4.43、山口県3.52となっています。関東周辺では東京都1.31、千葉県0.76、神奈川県0.41となっています。今後の流行に注意が必要です。

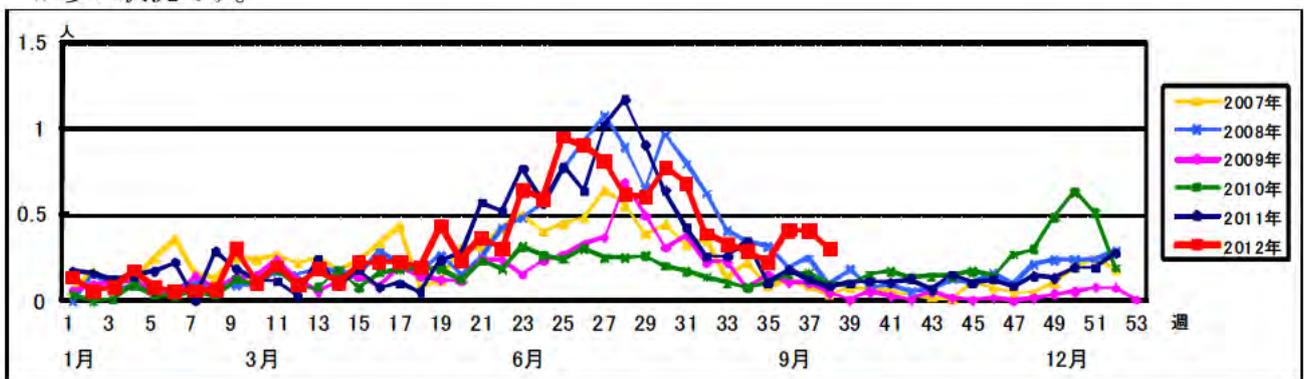


◆IDWR第36週:注目すべき感染症「RSウイルス」

<http://www.nih.go.jp/niid/images/idwr/kanja/idwr2012/idwr2012-36.pdf>

<咽頭結膜熱>

第38週は市全体で定点あたり0.31と、大きな流行は見られませんが、最近5年間の中では比較的報告が多い状況です。



<性感染症>

8月は、性器クラミジア感染症は男性が23件、女性が9件でした。性器ヘルペス感染症は男性が5件、女性が12件です。尖圭コンジローマは男性1件、女性が4件でした。淋菌感染症は男性が17件、女性が1件でした。

<基幹定点週報>

マイコプラズマ肺炎は全国的に流行しており、特に昨年度末は1.60～1.40(例年定点あたり0.2～0.6程度で推移)と増加しました。今年の初めは減少傾向が続いていたものの、第18週付近から再び上昇傾向を示しており、第35週1.09、36週1.08、37週1.10、38週1.05と、1.00を上回るようになりました。横浜市でも第35週1.33、36週0.00、37週1.00と、やや報告が多い状態が継続しています。無菌性髄膜炎が第35週に1件(幼児、病原体は未検出)、第37週に1件(幼児、病原体は未検出)報告されました。細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報>

8月は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症5件で、薬剤耐性緑膿菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

9月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点32件(鼻咽頭ぬぐい液29件、気管吸引液2件、ふん便1件)、基幹定点2件(鼻咽頭ぬぐい液1件、ふん便1件)、その他医療機関4件(鼻咽頭ぬぐい液2件、髄液1件、うがい液1)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は気道炎20人、RSウイルス感染症8人、発疹症2人、ヘルパンギーナ1人、胃腸炎1人、基幹定点は発疹症1人、胃腸炎1人、その他医療機関では脳症疑い2人、心筋炎疑い1人、インフルエンザ1人でした。

10月10日現在、小児科定点の気道炎患者1人からアデノウイルス(型未同定)、その他医療機関のインフルエンザ患者からAH1pdm09ウイルスが分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点のRSウイルス感染症8人と気道炎患者5人からRSウイルス、気道炎患者1人からコクサッキーウイルス2型、1人からエコーウイルス6型、1人からパラインフルエンザウイルス1型、1人からアデノウイルス(型未同定)が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

9月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から10件、定点以外の医療機関等からは23件あり、赤痢菌、腸管出血性大腸菌(O157:H7,VT2、O157:H7,VT1&2、O26:H+,VT1、O26:H-,VT2、O121:H19,VT1、O145:H+,VT2)、チフス菌、カンピロバクターが検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は小児科定点から3件で、A群溶血性レンサ球菌が検出されました。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(9月)

感染性胃腸炎

菌種名	検査年月 定点の区別 件数	9月			2012年1月～9月		
		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
		1	10	23	1	132	83
赤痢菌			2		2	2	
腸管病原性大腸菌					2		
腸管出血性大腸菌			1	12	4	39	
腸管毒素原性大腸菌					2		
チフス菌				1	1	1	
パラチフスA菌					2		
サルモネラ					20	3	
カンピロバクター		1			1	10	
コレラ菌						2	
NAGビブリオ						1	
不検出		0	7	10	0	99	25

その他の感染症

菌種名	検査年月 定点の区別 件数	9月			2012年1月～9月		
		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
		3	3	2	70	17	87
A群溶血性レンサ球菌	T1	1			10		
	T2				2		
	T6				9		
	T4	1			3		
	T12				10		
	T25				1		
	T28				3		
	T B3264				4		
B群溶血性レンサ球菌						17	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌			3		7	26	
バンコマイシン耐性腸球菌					1	3	
<i>Legionella pneumophila</i>						1	
インフルエンザ菌					6	2	
肺炎球菌					3		
黄色ブドウ球菌					1		
破傷風菌						1	
結核菌				1		4	
<i>Mycobacterium avium</i>						1	
緑膿菌				1		1	
不検出		1	0	0	18	8	32

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

(アクセス件数・順位 平成24年8月分、電子メールによる問い合わせ・追加・更新記事 平成24年9月分)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成24年8月のアクセス件数、アクセス順位及び平成24年9月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については総務局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数 (平成24年8月)

平成24年8月の総アクセス数は、133,218件でした。主な内訳は、感染症61.2%、食品衛生13.9%、保健情報8.4%、検査情報月報5.2%、生活環境衛生2.7%、薬事0.9%でした。

(2) アクセス順位 (平成24年8月)

8月のアクセス順位(表1)は、第1位が「マイコプラズマ肺炎について」、第2位が「クロストリジウム-デファイシル感染症について」、第3位が「衛生研究所トップページ」でした。

8月の総アクセス数は、前月比で約15%の減少となっています。感染症に関するアクセスが多くを占めていますが、市販DPD試薬に関する項目が10位に入りました。この内容は、市販されている「調整DPD試薬」に関して、遊離残留塩素および結合残留塩素に対する、選択性のない製品への注意喚起を促した内容となっています。感染症では、マイコプラズマ肺炎のアクセス件数が、年間を通じて多くなっています。国立感染症情報センターの報告によると、マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は、平成24年第31週(7月30日～8月5日)0.94、第32週(8月6日～12日)0.98、第33週(8月13日～19日)1.14、第34週(8月20日～8月26日)0.98となっており、昨年度と比べても依然高い傾向を示しているため、注意が必要です。

表1 平成24年8月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	マイコプラズマ肺炎について	7,193
2	クロストリジウム-デファイシル感染症について	3,597
3	衛生研究所トップページ	3,546
4	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	2,354
5	サイトメガロウイルス感染症について	2,062
6	サルモネラ感染症(食中毒)について	1,902
7	水痘(水疱瘡)・带状疱疹について	1,677
8	横浜市感染症情報センター	1,423
9	健康な妊娠・出産のために注意したい感染症について	1,393
10	市販DPD試薬を使用して遊離残留塩素を測定する場合の注意	1,392

データ提供:総務局IT活用推進課

厚生労働省のマイコプラズマ肺炎に関するQ&A(一般の人向け) 平成23年12月

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou30/index.html>

「クロストリジウム-デファイシル感染症」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/clostridium1.html>

「サイトメガロウイルス感染症」に関する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/cytomegalol.html>

「市販DPD試薬を使用して遊離残量塩素を測定する場合の注意」に関する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/inspection-inf/200803/pdf/dpd.pdf>

(3) 電子メールによる問い合わせ（平成24年9月）

平成24年9月の問い合わせは、5件でした(表2)。

表2 平成24年9月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
B型肝炎について	1	感染症・疫学情報課
B型肝炎ウイルス、サイトメガロウイルスについて	1	感染症・疫学情報課
クロストリジウム・ディフィシル感染症資料の複写と配布について	1	感染症・疫学情報課
妊婦のリストeria感染について	1	感染症・疫学情報課
ペストを媒介するノミについて	1	検査研究課が回答案作成し、感疫課から回答

2 追加・更新記事（平成24年9月）

平成24年9月に追加・更新した主な記事は、10件でした(表3)。

表3 平成24年9月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
9月 3日	感染症に気をつけよう(9月号)	追加
9月 3日	熱中症情報について	追加
9月 5日	ボツリヌス症について	更新
9月 6日	病原体定点からのウイルス検出状況	追加
9月10日	熱中症情報について	追加
9月12日	エルシニア感染症について	更新
9月18日	熱中症情報について	追加
9月18日	風しんの発生状況	追加
9月25日	2012(平成24年)年度のインフルエンザワクチンについて	更新
9月25日	熱中症情報について	追加

【 感染症・疫学情報課 】